

Ⅲ 研究の実践

1 各学年の授業実践

第1学年 学級活動指導案

平成27年6月9日(火) 第2校時 1年教室 指導者 T1 内藤 祐子
T2 寺坂 友希 養護教諭

- 1 題材名 だいいちだいきゅうしをたいせつにしよう
内容(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全
(カ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

低学年の児童は、乳歯が抜け始める時期で、生えかわる自分の歯について大変関心を持っている。また、第一大臼歯が生え始める時期でもある。第一大臼歯は、位置及び生えて間もないことから、歯ブラシが届きにくく、むし歯にかかりやすい。しかし、歯並びや噛み合わせなど今後の口腔衛生に重要な役割を担っている歯でもある。このような第一大臼歯の特徴を知ること、歯を大切にしていこうすることを自分の課題としてとらえ、そのために自分に合った歯のみがき方を見つけ実践していこうする態度を育てたいと考え本題材を設定した。

○児童の実態

本学級の児童は6名である。5月の歯科検診の結果では、歯肉炎の児童が1名いたが、むし歯になっている児童はいなかった。既に第一大臼歯が生えている児童が3名おり、前歯の永久歯については、全員何本かは生えている。

幼稚園の時、どうしてむし歯になるのかということを知り、歯みがきをしなければいけないことを理解しているので、給食後の歯みがきについても、自分から進んで行っている。しかし、歯ブラシを細かく動かしたり隅々までみがいたりすることはできておらず、一本一本の歯に合わせて歯ブラシをあてたり、動かしている児童は少ない。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

手鏡や個別歯列写真を使い、実際に自分の目で第一大臼歯の有無を確認させ、自分の歯について関心を持たせる。第一大臼歯と第二乳臼歯の歯の模型を使い、歯ブラシの当たり方・動かし方を考えさせる。

歯垢染め出し液を使い、自分のみがき残しがどのような場所にあるか確認させ、それを取り除けるように自分に合ったみがき方を体験させる。

(2) 専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

養護教諭から、第一大臼歯について話を聞くことで、その特徴や大切さについて理解できるようにする。また、T・Tを活用した個別指導により、個々の児童にとって自分に合った歯のみがき方が見つけられるよう留意する。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

3人ずつのグループで、自分に合った歯のみがき方について考え発表させる。その際、指導者が児童の考えを発表ボードに記入し、話し合い活動が円滑に進むよう補助する。出された考えに対して、共感的な態度で聞くことを徹底させる。

第一大臼歯の萌出を記録させたり、第一大臼歯を大切にしていこうすることを学級全体の共通の課題として取り組み、意欲を継続させていく。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
自分の口の中を観察し、歯の様子を見たり感じたりすることができる。	第一大臼歯の特徴を知り、自分の歯に合った歯のみがき方を考えることができる。	自分の歯に関心を持ち、歯を大切にするために自分に合った歯のみがき方を進んでしようとする。

4 指導計画

	日時	活動内容等
事前	5月28日(水)	「ただしい はのみがきかたを おぼえて つるっつるの はになろう」 ○前歯・糸切り歯・奥歯の名前を知り、歯に関心を持つ。 ○自分に適した歯ブラシの選び方や持ち方・みがき方を知る。 ○奥歯の外側・みぞ・内側のみがき方に名称をつける。 ○前歯2本に歯垢染め出し液をつけ、汚れている部分を確認し、歯をみがく。
本時	6月9日(火)	○第一大臼歯の特徴を知り、大切に守る方法を見つける。
事後	6月9日(火)～ 6月26日(金)	○自分の歯に愛着を持つために「だいいちだいきゅうしの6ちゃん」という愛称で呼ぶ。また、その記録を行い、自分の歯に対する関心を継続していく。 ○日常の給食後の歯みがきを大切にしていく。 ○歯科衛生士から、保護者による仕上げみがきの大切さや間食の取り方の話を聞き、実際に仕上げみがきをしてもらう。 ○通信等で歯と口の健康づくりに関する話題を取り上げ、家庭との連携を図る。

5 本時のねらい

第一大臼歯の特徴を知り、自分に合った歯のみがき方を考え大切にしていこうという意欲を持つ。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つかむ	1 学習課題について知る。	○自分の口の中を探検させる。(T1) 手鏡を使って自分の歯を確認させたり、自分の歯列写真を見たりして、第一大臼歯の有無を調べさせる。 ・大人の歯が生えている。 ・ぬけている歯がある。	◇自分の口の中を観察し、歯の様子を見たり感じたりすることができる。[観察]

		<ul style="list-style-type: none"> ・奥の方に新しい歯が生えている。 <p>○第一大臼歯は、永久歯の中でも大切な歯であることを知らせる。</p>	
		<p>だいいちだいきゅうしをたいせつにしよう</p>	
ふかめる	2 第一大臼歯について知る。	<p>○第一大臼歯の特徴について説明し、その大切さを理解させる。スライドを用い、視覚的に特徴を捉えやすくする。(T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人の歯 ・歯の王様(力持ち) ・奥の歯なのでみがきにくく、むし歯になりやすい等 	
ひろげる	3 自分に合った歯のみがき方を考える。	<p>○第一大臼歯と第二乳臼歯の歯の模型(3タイプ)を示し、自分の歯が今どのタイプかを確認させる。(T2)</p> <p>○3人ずつのグループに分かれ、自分に合った歯のみがき方を考えさせる。その際、各自の歯に応じた模型を使用させ、自分に合った歯のみがき方について発表させる。</p> <p>○第一大臼歯の生えかけの場合のみがき方をグループごとに考えさせる。</p> <p>○専門的な助言や発表ボードへの記入など、T1、T2が各グループに付き、話し合いの補助をする。</p> <p>○歯ブラシの当て方・みがき方について前時の学習を想起させ、具体的に表現させる。</p> <p>歯の外側(こちょこちょみがき) 歯のみぞ(しゃかしゃかみがき) 歯の内側(くるんくるんみがき)</p>	◇第一大臼歯の特徴を知り、自分の歯に合った歯のみがき方を考えることができる。 [発表]
実践する	4 第一大臼歯のみがき方を練習する。	<p>○奥から2本の歯の染め出しを行い、朝の歯みがきで汚れが残っていないか確認させる。(T1、T2)</p> <p>○自分の歯のみがきにくい場所を確認し、歯の外側・みぞ・内側・横みがきの順にみがかせる。(T1)みがいている様子を観察し、必要に応じて支援する。(T2)</p>	
つなげる	5 本時のまとめをする。	<p>○第一大臼歯を大切にするために、これから自分が気をつけることを発表させ意識付けさせる。(T2はカードに記入しておく。)</p> <p>○「だいいちだいきゅうしの6ちゃん」の生えた日を「たんじょうび」として記録していくことで意欲を継続させていく。</p>	◇自分の歯に関心を持ち、自分にあつた歯のみがき方を進んでしようとする。[発表]

7 準備物

歯ブラシ コップ タオル 洗濯ばさみ 手鏡 牛乳パック 第一大臼歯と第二乳臼歯の歯の模型(3タイプ) 歯列模型 染め出し液 綿棒 発表ボード 「だいいちだいきゅうしの6ちゃん」カード 各自の歯列写真

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

鏡を使用し、自分の「口の中のたんけん」をした。歯の数、形、ぐらぐらしている歯、生えかけの歯など児童は自分の歯の様子を鏡を使いながら確かめた。その結果、一番奥に生えかけの歯があることを確認した。

自分に合った歯のみがき方を考える活動では、第一大臼歯が生えていない模型、第一大臼歯が生えかけの模型、第一大臼歯が生え揃っている模型の3タイプから自分の現在の歯に合ったものを使用し、歯のみがき方を考えさせた。この模型に大型歯ブラシを実際に当てながら、事前に学習した「こちょこちょみがき」「しゃかしゃかみがき」「くるんくるんみがき」と言葉を使い考えさせることで、各自自分に合った歯のみがき方を考えることができた。



模型3種類



(2) 専門的な知識を生かした T・T 指導の工夫



事前学習として、養護教諭から歯ブラシの大きさや歯のみがき方などを学習し、本時の第一大臼歯についても、スライドを利用し第一大臼歯は「永久歯」「力持ち」「みがきにくい歯」など大切なポイントの説明を受けた。児童は興味を持ち学習できた。



自分に合った歯のみがき方を考えた後、実際にしてみる活動では、T1、T2の2人で見ていくことで、一人一人の歯みがきの様子をしっかりと見ることができ、上手にみがけているところやアドバイスなど声かけを行った。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

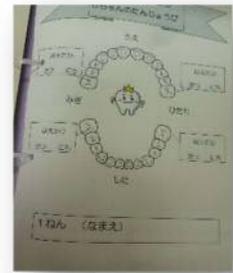
事前に児童の歯の様子を調べ、各グループに第一大臼歯が生えていない子・生えかけの子・生え揃っている子がいるように分けた。自分の考えを表現する方法としてホワイトボードを利用した。

入学して間もない時期であったので、T1、T2がそれぞれのグループに付き、児童の考えをボードに記録した。



(4) 「6ちゃんのおたんじょうび」カードの取組

本時以降も、自分の歯に関心を持つと共に、歯を大切にしていくことを継続していくために「6ちゃんのおたんじょうび」カードを記入することにした。その後、登校時や給食後の歯みがきの時、「6ちゃんが生えてきた。」と報告してくれた。その後、家庭での仕上げみがきや給食後の歯みがきの時、第一大臼歯の萌出を意識するようになった。歯ブラシが届きにくい奥歯ということも理解でき、以前より歯ブラシを奥に届かせるよう気をつける児童が増えた。



学級活動の取組

(1) ヘルスボランティアとの活動

毎年1・2年生を対象に、地域のヘルスボランティアとの交流活動を行っている。今年度は、「ひみこのはがいで」の話聞いた後、ご飯を使った歯によいおやつ(ごはんせんべい)作りを行った。甘いおやつから、するめやおにぎりなどの歯によいおやつに児童の関心が向いた。



(2) あいうべ体操

入学時、発音に少し課題のある児童がいた。養護教諭に相談した結果、学級全体で「あいうべ体操」に取り組むことにし、「きらきらぼし」のメロディーに合わせ、国語や音楽の授業の始まりに学級全体で1回歌うことにした。1ヶ月ほど継続した後、児童の実態に合わせて家庭で継続してもらうことにした。車での移動中や入浴時など、家庭の生活の中で無理のない時間帯に続けている。

発音の改善のみならず、咀嚼力の向上が見られ、食事時間の短縮(硬い物が食べられるようになった)や健康面にも改善が見られるようになった。

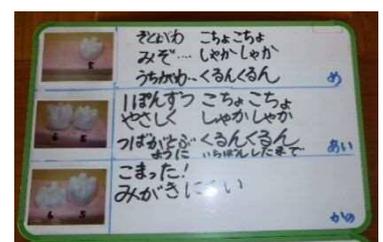
(3) 図工科での取り組み

紙版画で「はみがき きゅっきゅっ」という題材で自分の歯みがきをしている様子を思いうかべて紙版画の制作をした。前歯や犬歯など歯の形や数について関心を持ちながら取り組めた。また、「なにがでてくるかな」では、ストローを吹いて膨らませたり、吸って小さく縮めたりして遊んだ。児童は、遊び感覚で楽しく口の周りの筋肉を鍛えることができた。

(4) 学級 PTA 及び家庭との連携

今年度の学級 PTA 活動として、年間計画の中に歯・口に関する活動を取り入れた。6月26日5校時、親子でむし歯のでき方や正しい歯のみがき方など、歯科衛生士から話を聞いた後、実際に仕上げみがきを行った。その後も、家庭での仕上げみがきを継続している。

家庭に持ち帰って取り組んだ「歯みがきカード」「生活チェックカード」などにも、「歯についての取組で、いつも以上に意識しているのか、歯みがきのDVDを借りてきて弟と一緒に見ていました。」「『もうすぐ、はのおうさまがはえてくるんでー。』など、学校で教えてもらったことを家族にも教えてくれました。」等、家庭でも子どもたちの様子をしっかり見守っている様子がうかがえる。



1 題材名 えいきゅうしを大切に

内容 (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

(カ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

2年生の時期は、乳歯が永久歯に交換する時期であり、永久歯の正常な歯並びや噛み合わせを育成する面から重要な時期である。生えはじめの永久歯は、低く歯ブラシが届いていなかったり、表面が柔らかく酸に弱かったりとむし歯になりやすい特徴がある。そこで、今すでに生えている永久歯やこれから生えかわってくる永久歯を大切にしていこうとする態度を育てたいと考え、この題材を設定した。

○児童の実態

本学級の児童は14名である。永久歯への生えかわりの時期を迎えている児童が多く、上顎の前歯が生えかけている児童が4名、下顎の前歯が生えかけている児童が3名いる。前歯が生えたばかりですき間の空いている児童が7名いる。5月の歯科検診の結果では、乳歯にむし歯がある児童が4名いる。歯垢・歯肉は全員異常なしである。

昨年の歯・口に関するアンケートでは、歯をみがく時間は2分以下と答えた児童が10名おり、また、歯をみがくときに鏡を見ないでしていると答えた児童は8名いる。また、歯科衛生士とむし歯のなり方やむし歯にならないための歯垢の落とし方、間食の取り方について学習したが、生活に結びついていない児童が多い。

永久歯が生えてきていることにとっても関心を持っているが、大切にしようと考えて歯をみがいている児童は少ない現状である。

本学級には、特別支援学級に在籍する児童が2名いる。2名の児童が意欲的に学習できるよう、グループ分けや指示・説明の際には十分に配慮していきたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

手鏡を用意して自分の目で直接見て視覚で感じたり、舌を使い触覚でも感じたりする時間を持ち、自分の口の中の様子を感じ取ることができるようにする。

全体で自分の考えを表現する際に歯の模型を用いることで、自分に合った歯のみがき方を表現することができるようにする。

(2) 専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

養護教諭から永久歯の特徴について聞くことで、より具体的にイメージを持ち、自分のこととして考えられるようにする。また、T・Tを活用した個別指導により、自分に合った歯のみがき方を考えることができるようにする。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

児童が自分の考えを持つ時間をとり、考えたことを表現する場を設定する。その際、シートを一人に一枚ずつ用意し、自分の考えをまとめやすくする。児童一人一人が自分の考えを一度は表現できるよう、ペアで発表させ合う。全体では数人に発表させ、発表された意見に相づちを打つなど前向きな言葉かけをしながら聞くことを徹底させる。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
自分の口の中を観察し、歯や歯並びの様子を見たり、舌で触ったりして感じることができる。	自分に合った歯のみがき方を考え、表現することができる。	これからの自分に合った歯のみがき方について考えることができる。

4 指導計画

	日時	活 動 内 容
事前	6月 4日 (木)	「正しいはのみがきかたをしよう」 ○歯ブラシの選び方 ○歯のみがき方（こちょこちょ・しゃかしゃか・くるんくるん・たて）を知る。 ○乳歯・永久歯の名称（まえば・いときりば・おくば・だいたい一大きゅうし）を知る。
本時	6月18日 (木)	○永久歯の大切さを知り、自分に合った歯のみがき方を考える。
事後	6月18日 (木) ～6月25日 (木)	○1週間自分に合った歯のみがき方を実践する。 「〇〇週間」（児童と一緒に考える。） ○目標を意識して給食後の歯みがきをする。 ○1週間後にペアで歯を見合い意識してみがけたことを評価し合う。

5 本時のねらい

永久歯の特徴を理解し、自分に合った歯のみがき方をしていこうとする。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つかむ	1 学習課題について知る。	○歯の生えかわりクイズをし、サメや爬虫類など歯が何度も生えかわる動物と比較させることで、人間の歯は一度しか生えかわらないことに気づかせ、自分の歯の生えかわりについて意識を向けさせる。(T1)	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <small>えいきゅうし</small> 永久歯を大せつにしよう </div>	

ふ か め る	2 永久歯の特徴を知る。	<p>○乳歯から永久歯に生えかわっていく様子をスライドで示しながら説明する。(T2)</p> <p>○乳歯の下で永久歯が作られているために、乳歯のむし歯を放置しておくとう永久歯へ影響することを伝える。(T2)</p> <p>○生えたばかりの永久歯がむし歯になりやすいことを図で説明する。(T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低いため歯ブラシが届きにくい。 ・表面が柔らかく弱い。 	
ひ ろ げ る	3 自分に合った歯のみがき方を考え、発表し合う。	<p>○一人一人の口の中の写真を用意し、自分に生えている永久歯の有無を確認できるようにする。(T1)</p> <p>○生えている永久歯に注目させ、歯ブラシのどの部分を使ってどのようにみがくか(こちょこちょ・しゃかしゃか・くるんくるん)を考えさせる。(T1,T2)</p> <p>○シートを用意し、考えを記入させることで自分の考え「～だから～みがく」をまとめやすくさせる。(T1)</p> <p>○ペアで発表させ合うことで、一回は自分の考えを発表させる場を作る。(T1)</p> <p>○全体で発表する際、自分の口の中と同じように歯を抜いたり、沈ませたりできる模型を使わせることで、具体的に伝えたり、イメージしながら聞いたりすることができるようにする。(T1)</p>	<p>◇自分の口の中の様子を見たり、舌で触ったりして感じるができる。[観察]</p> <p>◇自分に合った歯のみがき方を考え、表現することができる。[発表]</p>
実 践 す る	4 3分間歯みがきをする。	<p>○自分の考えや友達の考えをもとに、歯みがきをさせる。(T1,T2)</p> <p>○手鏡を用意し、自分に生えている永久歯を意識させて歯みがきをさせる。(T1,T2)</p>	◇これからの自分に合った歯のみがき方について考えることができる。
つ な げ る	5 本時のまとめをする。	<p>○自分に合った歯のみがき方の目標を立たせ、ワークシートに書かせる。(T1)</p> <p>○1週間目標を守れたか自分でチェックする取組をすることを伝える。(T1)</p>	[ワークシート]

7 準備物

歯ブラシ コップ タオル 洗濯ばさみ 手鏡 牛乳パック

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

手鏡を使い自分の目で直接見たり，舌で触って感じたりする時間を持ったことで，自分の口の中で乳歯から永久歯に生えかわっている様子や第一大臼歯が大きいことを視覚や触覚で感じ，理解できた。

歯の高さを調節することで歯の生えかけの様子を表現できる模型を使い，再現することにより自分の口の中の様子を客観的に見ることができた。

その結果，自分の歯並びやでこぼこに合わせたみがき方を具体的にイメージして考えることができた。



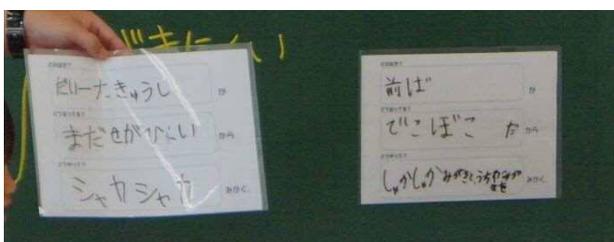
(2) 専門的な知識を生かした T・T 指導の工夫

生えたばかりの永久歯は背が低く，歯ブラシが届きにくいことや表面が柔らかくむし歯になりやすいという永久歯の特徴をスライドを用いた説明を聞くことで，理解しやすくなった。またこの説明を養護教諭から聞いたことにより児童はより危機感を持ち自分のこととして考えることができた。また個別指導により，自分の歯に合ったみがき方を考えることができた。



(3) 自ら考え学び合う場の設定

自分の歯に合わせたみがき方を考える際に，「どの歯が」・「どうなっているから」・「どのようにみがく」と3つに区切ったシートを用意したことで自分なりの考えを持つことができた。また，自分の考えをペアで発表し合うことで一度は自分の考えを表現できたという充実感を持つことができた。



(4) 「〇〇週間」の取組

事後の1週間を、自分が考えた歯のみがき方に取り組む週間として自分で名前をつけさせたことで、目標意識を持って給食後の歯みがきができた。また、1週間後にペアの友達に評価してもらったことで、その後もきちんと歯をみがいていこうとする意識を継続させることができた。



学級活動の取組

(1) 前歯のみがき方

2年生になってから前歯が生えかわる児童が多くいた。生えかわった前歯は永久歯であることを再確認し大切にしよう意識させた。

前歯の表側は縦みがきをして、裏側は縦みがきとかき出しみがきで歯垢を取ることを確認した後、歯垢染め出し液を前歯につけた。鏡を見て赤くなっているところを自分で確認し、歯列の絵に色を塗った。裏側の自分では見えない部分は、口腔内内視鏡カメラを使ってモニターに映し出して確認した。歯垢がついているところはみがけていないところであるため、どのようにみがけばよいか考えてみがき、歯垢を取り除いた。

普段から意識してみがかないと歯垢がついてしまうということを実感し、その後から意識してみがくようになった。



1 議題名 歯みがき名人になろう

内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

(カ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

乳歯から永久歯への転換期、永久歯の形成期である最も大切な時期にさしかかった児童に、この題材を通して自分の歯の状態を理解し、今一度、ていねいに歯をみがく習慣化を図っていきたく考えた。

本題材では、特に前歯の特徴や生え方の違いを理解した上で、効果的に歯垢を落とすためにはどのようなみがき方がよいか、児童自ら考え自分に合ったみがき方を身につけ、むし歯予防と気持ちよさやきちんとみがけている安心感を持たせていきたく考えている。

○児童の実態

本学級の児童は、12名である。10月の歯科検診の結果では、歯肉炎の児童が0名、乳歯のむし歯になっている児童が1名いた。

参観日におやつのとりの学習をして、「時間を決めてだらだら食べない」「糖分の多いおやつを食べ過ぎない」「栄養素を補うよいおやつを選んで食べる」ことを学習した。また、特に糖分を多く含むおやつは、むし歯になりやすいことも理解している。歯みがきについて毎年歯科衛生士により指導を受け、歯を大切にしなければいけないことも学習している。さらに、歯みがきポスターをつくって自分自身の決意表明もしてきた。

しかし、アンケートによると、みがいている時は何も思わない(2人)。みがいた後も何も思わない(2人)。前歯は気をつけてみがいている(4人)。どのくらいの時間みがくか(2分台1人、1分台9人、1分未満1人)。給食後の歯みがきもみがいているつもりでも十分にはみがけていない実態がある。また、歯みがき後の気持ちよさや自分の歯のみがき方に自信をもっている児童が少ないのも事実である。

本授業では、日頃の活動である「課題をもち、みんなで考え、解決し実行する」学習パターンを取り入れ話し合いながら、自分の前歯・口に対する関心と、自分に合った歯のみがき方を習得させたい。また、意欲的にみがこうとする態度を継続させるために、みがいた後の気持ちよさ(満足感)をもたせていきたく考えている。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

本時の追求の視点は、「前歯の特徴に合ったみがき方を習得し気持ちよさや安心感を得る」である。実際に歯垢染め出し液で染まった歯をみがき、どのようにみがくとよいかグループで話し合い自分に合ったみがき方を追求する。この時染まった歯の色を無理やり落とすのではなく、理に合ったみがき方を考えるように課題を出しておく。

(2) 専門的な知識を生かした工夫

どこをどのようにみがいたか歯科医に話し、みがき方の指導を受ける。その際自分に合った歯のみがき方の評価をしてもらう。みがき方が今少しの児童は再挑戦、2回目以降は特に前歯の外側の3カ所みがき、内側のかき出しみがきについて指導を受け、自分の歯に合ったみがき方を会得し、だれもが「できる」という思いをもたせたいと考えている。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

「課題をもち、みんなで考え、解決し実行する」学習パターンに置き換えて「前歯にとってどんなみがき方が正しいのか」課題をもち、「グループやみんなで考え」「自分でみがいたり指導を受けたりしながら自分の歯に合ったみがき方を会得し、今日からきちんともみがく、みがいた後の感想を出し合う」など前向きな活動を取り入れていく。また、保護者には、歯についての話題を提供し、夜の歯みがきの点検や仕上げみがきを徹底してもらい、子ども達に気持ちよさや安心感を継続させていきたい。尚、児童の口の中は、前歯がほとんど生えそろっている、むし歯がほとんどないという条件を満たしているので、友達と口の中を見合うことができると考えグループでの話し合いを取り入れた。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
歯科医の専門的な指導を受け、関わりを持とうとする。	様々な視点から新たな考えを取り入れ、自分に合った歯のみがき方を考えることができる。	自分に合った歯のみがき方を習得し、学校だけでなく、家庭でも意欲的に取り組もうとする。

4 指導計画

	日 時	活 動 内 容 等
事 前	10月 1日	歯みがきについて、「事前アンケート」をとり、実態をつかむ。 学活「おやつのと리카た」を参観日にし、親子でおやつのと리카たの改善をねらう。
本 時	11月16日	自分の前歯にあった歯のみがき方を習得し継続していこうとする。
事 後	11月16日 1週間	保護者との連携を図り、夜の歯みがきの徹底と継続を促す。 (16日夜は、親子で歯のみがき方の復習をする。17日の朝から実践)

5 本時のねらい

前歯の特徴を知り、自分の前歯にあった歯のみがき方を習得し継続していこうとする。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習の評価
つかむ	1 歯の実験の結果を見て感想をもつ。	<p>○事前に用意した歯の実験を見せ、歯みがきの必要性を再度確認することで、歯みがきをきちんとしようとする意識をもたせる。</p> <p>○既習の第一大臼歯の特徴を思い出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番に生える永久歯 ・大きくて力持ち ・溝がいっぱい、みがきにくくむし歯になりやすい。 ・生えたての歯は、むし歯になりやすい。 ・永久歯は、もう生えかわることがない、大切な歯である。 	
	2 本時の学習課題をつかむ。	歯みがき名人(その2) _____みがいて 前歯ピッカピカ★	
ふかめる	3 前歯の歯垢染め出しを行う。	<p>○まず、前歯の特徴を鏡で見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコップのようにそっている。 ・内側の真ん中へんがへこんでいる。 ・奥歯と違って平たい。 <p>○自分で歯垢染め出しをし、赤く染まった部分をワークシートに記録させることにより、付着している歯垢を確認させる。</p>	
ひろげる	4 グループで話し合う。 ・みがき残しの部分の特徴をまとめみがき方を考える。 ・自分の歯のみがき方を考える。	<p>○どこがどのように染まっているか確かめ、「前歯にとってどんなみがき方が正しいのか」課題をもち、グループで考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯と歯の間が赤い。→縦にみがく。 ・歯の内側が赤い。→かき出すようにみがく。 <p>○自分の歯のみがき方を考えることができれば、シールを貼って確認する。でこぼこや背の低い歯の児童には、個別指導をする。</p>	◇様々な視点から新たな考えを取り入れ、自分に合った歯みがきの仕方を考えることができる。[発表]
実践する	5 歯をみがき、学校歯科医に見てもらう。	<p>○歯垢染め出し液で赤くなったところを中心に、本格的に鏡を見て自分の歯をみがく。</p> <p>○学校歯科医に評価をしてもらうことにより正しいみがき方を体験させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変よい(きらきらシール)をもらう。みがき方が今少しの児童は、再度歯みがきの挑戦をし、どのような 	◇学校歯科医の専門的な指導受け関わりを持つとうとする。 [観察]

つなげる	<p>6 正しい歯のみがき方のおさらいをする。</p> <p>7 今日のまとめや今後の頑張りをワークシートに書く。</p>	<p>みがき方がよいか習得していくよう励ます。</p> <p>○自分の歯のみがき方を習得した後、もう一度歯科医から歯みがきについて話を聞き理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯ブラシの使い方 ・前歯の「3カ所みがき」や「かき出しみがき」を聞き、鏡で見たり、歯でさわって確認したりする。 <p>○本時の学習からできるようになったことや気持ち、これからどのようにみがくと「歯みがき名人」になれるかをワークシートに書く。(時間があれば発表する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前歯をうまくみがく方法を見つけられた。 ・これからはばっちりみがける。 ・今までのみがき方でよかったのでうれしかった。 ・3カ所みがきやかき出しみがきをきちんとする。 ・生えかわったばかりの前歯だから、むし歯にならないようにみがきたい。 <p>○最後にワークシートの水色の部分に、言葉を入れて自分のみがき方のキャッチフレーズにする。</p> <p>○保護者に協力依頼し、歯みがきの点検と仕上げみがきを一週間してみる。その際「歯みがき貯金」で継続を促す。</p>	<p>◇自分に合った歯のみがき方を習得し、学校だけでなく、家庭でも意欲的に取り組もうとする。[ワークシート]</p>
------	---	--	--

7 準備物

歯ブラシ コップ 手鏡 タオル 牛乳パック 洗濯ばさみ 歯の模型 歯の実験写真 ワークシート

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

前歯の形やみがき残しがどうか、手鏡を使って観察することで、前歯はまっすぐではなく、スコップのような形をしていることがわかった。歯垢染め出しをすることで、普段の歯みがきでは、みがけていないところを視覚的に認識することができた。特に、歯と歯の間や歯の裏側に歯垢が残っている児童が多く、どのように歯ブラシを当てたらよいか考えることができた。



(2) 専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

学校歯科医の千原先生をGTとして授業に招き、前歯のみがき方についてグループで考える様子を見てもらった。また、自分たちが考えたみがき方で色が染まったところをていねいにみがいて千原先生にチェックしてもらい、合格のきらきらシールをもらうことができた。

最後に千原先生から前歯の外側は歯ブラシを横にして全面をあてるだけでなく、歯と歯の間は歯ブラシを縦にして3カ所みがきをすること、前歯の裏側は歯ブラシの毛先やかかとを当ててしっかりかき出すことなどを教えてもらった。



(3) 自ら考え学び合う場の設定

前歯のみがき方について考える時、グループで意見を出し合うことで、前歯はみがき残しが多いことがわかり、みがき方の工夫についてまとめることができた。

また、グループでお互いの口の中を確認することで、アドバイスできている児童もいた。みがけたらシールを貼り、だんだんと歯みがき名人に近づいていけるよう意欲が高まった。



第4学年 学級活動学習指導案

平成27年11月10日（火）第5校時 4年教室 指導者 T1 伊藤 有李紗

T2 小林 幸子

T3 寺坂 友希養護教諭

1 題材名 むし歯のないピカピカの歯をめざそう

内容（2） 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること

（カ） 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

児童は2学期の学級活動の時間で、歯の構造やむし歯の原因について学習をしたり、学校歯科医から歯みがき指導を受けたりしている。自分の課題に気づき、それをよりよく解決する方法を実践し、生涯にわたって健康の保持増進ができるような資質や能力を考えることを目標としている。

児童自身が話し合い活動をもとに自分の生活に合ったむし歯にならないための目標を決め、実践の習慣化を図るために、この題材を設定した。

○児童の実態

本学級の児童は16名である。犬歯や小臼歯への生えかわりの時期を迎えている児童が多い。

10月の歯・口の健康診断の結果では、乳歯にむし歯がある児童が1名、永久歯にむし歯がある児童はいなかった。また、歯垢が付着していた児童は3名、歯肉炎の児童は3名であった。

10月に実施した歯・口に関するアンケートでは、歯をみがく時間は3分以下と答えた児童が1名おり、また1日に3回歯みがきができていない児童が5名、歯みがきをした後に間食をとると答えた児童が1名いた。歯科衛生士とむし歯のなり方やむし歯にならないための歯垢の落とし方、噛むことの重要性について学習したが、生活に結びついていない児童が多いことがうかがえる。むし歯の予防について具体的にどのようなことをすれば良いのかということについては、考えることができていない児童が多い。歯の生えかわりには関心を持っているが、大切にしようと考えて歯をみがいている児童は少ない現状である。

本学級には、特別支援学級に在籍する児童が2名いる。2名の児童が意欲的に学習できるよう、授業の流れを黒板に掲示し、常に見通しや今の活動がどの学習場面なのかを視覚化し、安定して集団の中で活動できるよう十分に配慮していきたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

（1）体験的な活動の工夫

健康な歯を保っているお年寄りにインタビューをし、気をつけていることやたくさん歯を残すための小学生へのアドバイスをしていただくことで、将来「8020運動」達成者となるためにどうすればよいのかを考えられるようにする。

また事後では、手鏡や歯垢染めだし液を使い、自分の歯を確認しながら考えたり、みがき残しを取り除くことができるために自分に合ったみがき方を体験させたりしていく。

（2）専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

事前では、歯の名称、歯の構造、むし歯の原因・予防について養護教諭から話を聞くことで、

より具体的にイメージを持ち、自らの課題として考えることができるようにする。本時では、養護教諭が話し合い活動の中で、専門的な立場を生かし、アドバイスを児童にしていく。また、犬歯と臼歯をみがく際には、T・Tを活用した個別指導をすることによって、個々の児童にとって自分の歯に合ったみがき方を見つけられるようにする。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

歯みがきのメリットやむし歯にならないための具体的な目標をグループで考え、ワークシートの中に記入していく。4グループ分のワークシートが出揃った後、自分のむし歯にならないための目標を決めていくために話し合い活動を行う。その中では、他のグループの考えを【良いところを見つける】【質問する】【同意する】【相違する】【比較する】【関連させる】の話し合い活動のキーワードを使いながら自由に話し合わせることで、互いの考えを理解できるようにしていく。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いて質問をしたりするなど積極的に話し合いに参加しようとしている。	むし歯にならないためにできることを多面的に考えることができる。	むし歯にならないために自分が続けていける目標を立てることができる。

4 指導計画

	日時	活 動 内 容
事前	10月26日(月)	「むし歯の原因を知ろう」 ○歯の構造を断面図を用いて、エナメル質、象牙質、歯肉、セメント質、歯槽骨、神経・血管から歯が構成されていることを知る。 ○むし歯の進行をCO,C1,C2,C3,C4の名称を用いて知る。
	11月2日(月)	○健康な歯を保っているお年寄りにインタビューをし、健康な歯を保つための秘訣を探る。
	11月6日(金)	○インタビューしたことを発表する。
本時	11月10日(火)	○自分に合ったむし歯にならないためにできることを考え目標を設定する。
事後	11月11日(水)～ 11月17日(火)	○本時で考えた目標に1週間取り組む。
	11月19日(木)	○犬歯と臼歯を自分の歯に合ったみがき方を考え、実際に歯をみがく。 ○通信等で歯・口の健康づくりに関する話題を取り上げ、家庭との連携を図る。

5 本時のねらい

むし歯にならないためにどのようなことに気をつけたら良いか考え、自分が続けていける目標を立てることができる。

6 本時の展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<p>つ か む</p> <p>1 前時の学習の振り返りをする。</p> <p>2 お年寄りの方にインタビューし、発表したことを振り返る。</p> <p>3 学習課題について知る。</p>	<p>○むし歯の原因について確認させる。(T3)</p> <p>○本時の学習課題をより理解しやすくなるようにするために、前時で健康な歯を保っているお年寄りの方にインタビューをし、発表したことを振り返る。</p>	
<p>むし歯にならないために自分ができる目標を決めよう</p>		
<p>ふ か め る</p> <p>4 むし歯予防の方法についてグループで考える。</p>	<p>○クラスでむし歯にならないために気をつけることを考え、2つの視点(正しい歯みがき、おやつのとりの方)を児童に挙げさせる。(グループ分けが難しいものについてはその他に入れるようにする。)</p> <p>○2つの視点から具体的に自分たちができることを考え、グループでワークシートを埋めていく。</p> <p>・グループ全員が意見を出せるよう活動の前に全体に確認をする。</p> <p>(児童の反応例)</p> <p>正しい歯みがき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーで時間を計る。 ・手鏡を使ってみがく。 ・正しい大きさの歯ブラシを使う。 ・家族に確認をしてもらう。 ・食べた後すぐにみがく。 <p>おやつのとりの方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日決まった時間にする。 ・砂糖が多いおやつを食べない。 ・食べる量を減らす。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きをする。 ・三食きちんと食べる。 <p>○支援の必要な児童に対して、グループの話し合い</p>	<p>◇むし歯にならないためにできることを多面的に考えることができる。[ワークシート・発表]</p>

ひろげる	5 4で考えたことをもとに全体で話し合う。	<p>に参加しやすくなるよう発表内容を一緒に考えていくなど活動の補助をする。(T2)</p> <p>○専門的な立場から児童にアドバイスをし、事前に学習した内容を想起させたり、自分の生活を振り返らせたりさせる。(T3)</p> <p>○グループごとのワークシートをもとに話し合い活動のキーワード【良いところを見つける】【質問する】【同意する】【相違する】【比較する】【関連させる】を使って、自由に話し合わせる。出た意見で必要なものは教師がワークシートの中に記入していく。</p> <p>○なるべく多くの児童が発言できるように、話し合いのルールとして、発表していない児童から指名をするようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動のキーワードをまとめた用紙を児童の目につく場所に掲示し参考にできるようにする。 ・話し合いが止まったときには、司会の児童が「考える時間をとる」「隣同士で話し合う」等の方法を示し、話し合いを円滑に進められるよう配慮する。 	◇自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いて質問をしたりするなど積極的に話し合いに参加しようとしている。【発表】
実践する	6 5で考えた個人の目標をワークシートに書く。	<p>○話し合ったことをもとに自分が実践できそうな活動をワークシートの中から一つ選ばせる。自分が決めた目標を個人のワークシートに記入をすることで、むし歯予防のために実践していくことへの意識づけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体での話し合いの後、例えばどんな目標がたてられそうか児童に投げかけ、何人かに発表させることで、目標の決定が難しい児童の参考になるようにする。 ・目標の決定が難しい児童に対して、具体的なアドバイスをする。(T2) 	◇むし歯にならないために自分が続けていける目標を立てることができる。【ワークシート】
つなげる	7 本時の振り返りをする。	○自分が決めた目標を継続的に実践していくために、1週間『むし歯予防がんばろう週間』を設定し、家庭でも取り組んでいくように伝える。	

7 準備物

インタビューをまとめたもの グループ用のフィッシュボーン図のワークシート 『むし歯予防がんばろう週間』のワークシート

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

地域の「8020運動」達成者を招いて、歯みがきの仕方・間食のとり方・その他について聞いてみたいことを一人一人考え、インタビューを行った。

歯みがきについては、「夜は5分以上みがいている」「歯と歯ぐきの間を特にていねいにみがいている」、間食については「砂糖の多いジュースなどは飲まない」、その他については「栄養バランスを考えてたくさんを摂るようにしている」「軽い運動を定期的に行っている」ことなど教えていただき、身近にお手本となる地域の人がおられることで、児童自身の具体的な目標ができ、児童の中には「私も『8020運動』を目指したい」という感想が多く見られた。

本時においてもこのインタビューでまとめたことをもとに、むし歯にならないための具体的な手立てを考えることができたように思う。児童が自分の生活を振り返り、健康的な生活を毎日続けていくことが、将来の歯・口の健康につながることへの理解が深まった。



8020運動達成者へのインタビュー



スライドや模型を使って説明

(2) 専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

事前に養護教諭からむし歯の原因、むし歯の進行、予防の方法についてスライドや模型を使って説明することで、以前は歯垢について食べかすや砂糖のかたまりだと思っていた児童も多かったが、ミュータンス菌などのかたまりであると理解できるようになった。以前と比べてむし歯に対する知識・理解が深まったと推測する。

本時においてもむし歯に対する正しい知識を持っているか、授業の冒頭で確認クイズをしてから授業に入ることによってその後の話し合い活動をスムーズに行うことができた。

また、事後に健康集会で、位相差顕微鏡を用いて歯垢の中にある細菌を見ることで、写真だけでなく、普段は目に見えない細菌が口の中で実際に動いていることが視覚的に理解でき、自分たちにできる対策としての歯みがきをする意識が高まった。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

本時では、話し合い活動をメインにグループで「むし歯にならないために自分たちにできること」について「正しい歯みがき」「おやつのとり方」「その他」の3つの視点で意見を出し合った。考えるヒントとして事前に「8020運動」達成者のインタビューでまとめたことを参考にした。

また、グループでフィッシュボーン図を使って具体的な手立てについて考えることができるように工夫した。他のグループの発表を聞いて意見を言う時のキーワードとして「良いところを見つける」「質問する」「同意する」「相違する」「比較する」「関連させる」を使って話し合い活動をすすめることができた。話し合ったことをもとに、出た意見の中から、自分が継続的に実践できそうな目標を決め、1週間「むし歯予防がんばろう週間」に取り組むことができた。

児童が目標を設定するにあたって、「自分は歯みがきの時間が短いから、「8020運動」達成者の方のように5分みがいてみる」とか、「いつも炭酸ジュースなどを飲んでいるが、甘いジュースやおやつを減らす」など自分の生活に結びついた目標設定ができた児童が多かった。



班での話し合い活動



意見の交換

学級活動の取組

(1) 「犬歯・小臼歯のみがき方」

むし歯にならないための方法を考える授業後、特に4年生の時期に生えかわりの多い犬歯・小臼歯の特徴や歯ブラシの使い方・みがき方について説明し、実際に歯垢染め出しをして、みがき残しがあつたところを中心に歯ブラシを使い分けながらみがくことができた。

給食後の手鏡を使ってみがく習慣が身につき、以前よりも児童が自主的にみがけるようになった。



(2) 地域との連携

地域で「8020運動」を達成され、表彰されている人を保健福祉課から紹介してもらい、児童が歯・口の健康について聞いてみたいことをインタビューする機会を設けた。

その人は乳歯のむし歯が1本あつたが、その後はむし歯もなく、90歳である現在も自分の歯が20本以上残っており、歯みがきについては、「ふつうの歯ブラシと歯間ブラシを使い分けている」ことや、「特に歯と歯ぐきの境目をていねいに意識してみがいている」ことについて話された。また、食生活にも気をつかっておられ、「ふだんから野菜や肉・魚などバランスよくとるようにしている」や「噛みごたえのあるものを食べている」ことなど参考になった。

知人の中には、入れ歯の人や、十分に食事がとりにくい人が多いことから、自分の歯を健康に保つことは、食べる喜びや食事の楽しみ、体のバランスの維持など様々なことにつながっていることを伝えられた。児童たちも地域の方とふれあい、身近に感じる



ことで、将来の歯・口の健康へのイメージや、今自分たちができることについて考える手助けになった。

(3) 英語フェスティバル

英語フェスティバルで、「世界では、乳歯がぬけた時にどのようにしているのか」について様々な国の風習を調べ、児童自らがシナリオを作成し、全校の前で発表した。

日本では、「ねずみの歯とかえてもらえるよう屋根の上になげる」、モンゴルでは「犬にぬけた歯を食べさせたり、木に植えたりする」、スペインでは「ぬけた歯をまくらの下に置いて寝ると次の日あめやコインとかえてくれる」などを劇にして発表した。乳歯がぬけた時にどうするかについても国によって様々であることを伝えることで、歯・口への興味が広がった。



(4) 図工

「飛び出すカード」作りでは、歯・口の学習で印象に残っていることや健康集会での「あいうべ体操」や歯みがきの様子などを表現していた。立体的にハブラシを動かせるように工夫もみられた。他教科と連携することで、児童の歯と口に対する関心が高まった。



第5学年 学級活動指導案

平成28年6月10日（金）第4校時 5年教室 指導者 T1水嶋 吏恵
T2春名 志保
T3寺坂 友希 養護教諭

1 題材名 歯肉炎を予防しよう

内容（2）日常生活や学習への適応及び健康安全
（カ）「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

むし歯や歯肉炎は、小学生にとって身近な生活習慣病である。それが原因で歯を失ってしまうと、歯・口の健康が損なわれ、「食べる」「話す」「表情をつくる」「運動する」などに支障をきたすことになる。

むし歯や歯肉炎を予防することは将来の健康的な生活に大きく関わっており、永久歯列が完成し始める5年生の時期に、歯や歯肉を大切にしようとする意識を高め、生涯にわたって歯や歯肉を健康に保っていく生活習慣の獲得が必要であると考えられる。

そこで、自分の歯列に合った歯のみがき方を身につけ、習慣化するために、本題材を設定した。

○児童の実態

本学級の児童は15名である。5月の歯科検診の結果では、歯肉炎の児童は3名で、治療が必要なむし歯を持つ児童は1名だった。第二大臼歯が生えている児童は1名だった。

4年生では、むし歯の原因や進行・予防、小臼歯のみがき方について学習している。

また、地域の「8020運動」達成者にインタビューを行い、歯や歯肉を健康に保つための歯のみがき方や、間食を摂る時に気をつけていることなどを学び、以前と比べて歯・口への関心は高まってきている。

給食後も3分間歯みがきDVDを見ながら全員歯みがきに取り組んでいるが、歯と歯肉の間をていねいにみがくことや、自分の歯並びに合ったみがき方ができているかについては課題がある。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

（1）体験的な活動の工夫

自分の歯並びに合った歯のみがき方を考える場面では、可動式の歯列模型を使うことで、より具体的に考えられるようにする。歯ブラシの使い分けやデンタルフロスの使い方についても模型を使って発表することで視覚的に理解しやすいようにしたい。

（2）専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

事前に全国歯みがき大会に参加し、歯肉炎の観察のポイントや歯ブラシ・デンタルフロスの使い方について学習することで、より歯肉炎の予防について理解が深まるようにする。

本時では、養護教諭が歯肉炎の原因と進行について説明することで歯肉炎を予防し、歯肉を健康に保つことの大切さについて考えさせたい。

（3）自ら考え学び合う場の設定

歯肉炎について学んだ知識を使って、歯と歯肉の間や歯と歯の間などの歯垢のたまりやすい部

分について自分の歯並びに合ったみがき方を考えさせ、班で発表シートにポイントをまとめさせたい。

話し合いの際は、他のグループの考えを【良いところを見つける】【質問する】【同意する】【相違する】【比較する】【関連させる】といったキーワードを使って様々な考えを引き出せるようにしたい。また、共感的に話したり聞いたりすることを徹底する。

話し合いで出た意見の中から自分に合った歯肉炎予防の方法を目標として設定できるようにしていく。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
自分の口の中を観察し、歯肉の様子を知ることができる。	歯肉炎の予防方法について考え、班で話し合うことができる。	自分の歯並びに合った歯肉炎予防のための歯のみがき方を実践していこうとすることができる。

4 指導計画

	日 時	活 動 内 容 等
事前	6月 3日(金)	○学童歯みがき大会に参加し、歯肉炎予防の方法について考える。
本時	6月10日(金)	○歯肉炎の原因について知り、歯肉炎予防のための自分の歯並びに合った歯のみがき方を考える。
事後	6月10日(金) ～ 6月17日(金)	○歯肉炎予防週間を設定し、家庭でも自分に合った歯のみがき方を実践する。 ○日常の給食後の歯みがきを大切にしていく。 ○通信等で歯と口の健康づくりに関する話題を取り上げ、家庭との連携を図る。

5 本時のねらい

歯肉炎の原因について知り、歯肉炎予防のための自分の歯並びに合った歯のみがき方を考え、習慣化することができる。

本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つかむ	1 歯周病の原因や進行について知る。	○歯周病について説明する。(T3) 将来的に歯を失う原因となりうる歯周病の進行についてスライドを用いて説明する。	
	自分の歯並びに合った歯肉炎予防のための歯のみがき方を考えよう		
ふかめ	2 自分の歯肉を手鏡で観察し、歯肉の色・形・かたさ・出血があるかを	○前時の歯みがき大会で行った歯肉の観察の2回目の様子を歯みがき大会教材に記入させる。(T1)	◇自分の口の中を観察し、歯肉の様子を知

る	記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ○健康な歯肉と歯肉炎の図を提示して観察のポイントを確認する。(T 1) ○前回記入したものと比べながら、変化があったかどうかについても記入できるようにする。(T 1, T 2, T 3) 	<p>ることができる。[観察]</p>
ひろげる	<p>3 歯肉炎を予防するための自分の歯並びに合ったみがき方について考え、班で話し合う。</p> <p>4 班でまとめたポイントを全体で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歯科検診の結果を参考に手鏡で自分の歯ならびや生えかけの歯などを観察させ、工夫してどのようにみがいたらよいか具体的に考え、ワークシートに記入させる。(T 1, T 2, T 3) ○歯の生えかけや歯並びがでこぼこになって歯垢がたまりやすいところに注目させることで、自分の課題になっている箇所が分かるようにする。 ○歯肉炎がない児童についても普段どのように工夫してみがいているか振り返られるように声かけをする。 ○4班に分かれ、歯周病を予防するための歯のみがき方やデンタルフロスの使い方の工夫について意見を出し合い、発表シートにポイントをまとめさせる。 ○班でまとめた意見やみがき方のポイントを可動式の歯列模型や歯ブラシ・デンタルフロスを使って発表させる。(T 1, T 2, T 3) ○各班の発表を聞き、全体で話し合いをする際には、話し合い活動のキーワード【良いところを見つける】【質問する】【同意する】【相違する】【比較する】【関連させる】を使って自由に話し合いができるようにする。 ○全体で発表することで一人一人の考えが広がるように、一人1回は発言できるようにする。 	<p>◇歯肉炎の予防方法について考え、班で話し合うことができる。[ワークシート]</p>
つなげる	<p>5 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に合った歯肉炎予防のための歯みがきやデンタルフロスの使い方为目标に設定し、1週間歯周病予防のための歯みがきを実践することを伝える。(T 1) 	

7 準備物

手鏡 ワークシート 歯みがき大会プログラム 発表シート 歯列模型
 デンタルフロス模型 歯肉炎予防週間チェックシート

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

全国歯みがき大会で行った歯肉チェックの2回目を本時で行ったが、前回と比べて歯肉の状態がよくなっている児童が多く、歯みがきの効果を実感することができた。

また、自分の歯並びに合った歯肉炎予防のための方法を考える際に、歯科検診の結果や鏡で見ることにより、自分の歯並びを把握できていた児童が多かった。背が低い生えかけの歯や歯並びがでこぼこになっているところや歯と歯ぐきの境目など特に注意が必要なところに注目して、みがき方の工夫を考えられていた。可動式の歯列模型や、デンタルフロスの模型などを使って歯ブラシを縦にして入れたり歯と歯の間はデンタルフロスを使ってみがくなど自分たちの言葉でまとめ、発表できていた。

今後もむし歯予防のための歯みがきだけでなく、将来にわたって「8020運動」を達成できるよう、歯と歯ぐきの境目や歯と歯の間など歯肉炎予防のための歯のみがき方を実践していけるよう継続的な指導をしていきたい。



(2) 専門的な知識を生かしたT・T指導

事前に全国歯みがき大会で歯肉炎の歯ぐきの見分け方と歯肉炎予防のための歯のみがき方やデンタルフロスの使い方について学習していたので、基本的な知識は児童に身につけていた。

本時では、養護教諭が、歯肉炎の原因と進行についてスライドを使って説明し、歯肉炎の模型で歯肉炎が進行すると歯がぐらぐらして抜けてしまうことを伝えた。

また、昨年学習した「8020運動」についてふれ、将来にわたって自分の歯を守っていくためには、今から歯肉炎予防を継続していくことが重要であると説明した。

(3) 自ら考え、学び合う場の設定

自分の歯並びにあった歯肉炎予防のための方法を考える時に、まずは自分の歯・口の状態を知り、自分の課題は何かを考えさせることができた。また、現時点で健康課題がない児童についても、歯肉炎にならないためにどんなことに注意したらよいかについて考えさせた。

班での話し合いでは、自分たちの意見をまとめ、全体で可動式の模型を使って他の児童にわかりやすく発表できていた。特に歯と歯の間はデンタルフロスを使いたいという児童が多かった。

各班の発表を聞いた後の話し合いの時間が十分にはとれなかったが、一人一言ずつ意見を言うことができた。もう少し、他の児童の意見を聞いて質問したり、賛同したり、新たな考えを提案するなど、話し合い活動が深められるような時間設定ができればよかった。



1 題材名 よく噛んで健康なからだを目指そう

内容 (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

(カ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

よく噛んで食べることは、食べ物の消化・吸収を助けるだけでなく、咀嚼によって唾液が分泌され、口の中が清潔になり、むし歯や歯周病を予防することができる。

永久歯が生え揃うこの時期に、歯・口の健康が全身の健康に影響を及ぼすことを知り、将来にむけて自分の歯を大切にし、よく噛んで食べることを意識し、実践できるように本題材を設定した。

○児童の実態

本学級の児童は14名である。永久歯への生えかわりの時期を迎えている児童が多い。5月の歯科検診の結果では、第二大臼歯が生えている児童が8名おり、治療を必要とするむし歯がある児童は0名だった。

5年生では、歯肉炎の原因・予防のための歯のみがき方についてや、五感を使って味わい、よく噛んで食べることの大切さについて家庭科で学習した。また、給食時間に栄養教諭から「ひみこのはがーぜ」について話を聞いており、噛むことの大切さについて理解している。しかし一方では、よく噛まずに飲み込んでいる児童もいる現状がある。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

咀嚼力判定ガムを噛んで色の変化を見ることで、しっかり噛むと唾液が出ていることが視覚的に分かるようにした。また、食パンとフランスパンを食べ比べることで噛む回数やあごの動き、唾液の出方などの違いを実感させ、よく噛んで食べることの大切さについて考えさせたい。

(2) 専門的な知識を生かした T・T 指導の工夫

養護教諭が唾液の成分や働きについて説明し、よく噛み食べることが唾液の分泌を促し、むし歯予防につながることを理解させる。また、「ひみこのはがーぜ」について確認し、よく噛んで食べると、消化によい、脳が活性化する、肥満防止など全身の健康につながることをスライドや写真などを使って理解しやすいように工夫したい。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

一人一人が自分の考えを持つことができるように十分に考える時間を確保したい。その際、ワークシートに書くことで、自分の考えを整理したりまとめたりさせたい。また、2、3人の小グループで発表し合って自分の考えを表現する場にするとともに、小グループで考えを一つに絞る収束的な話し合いの場にしたい。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
軟らかい食品と硬い食品の噛む回数やあごの動き、唾液の出方などの違いを感じることができる。	よく噛んで食べるためにどんなことができるかを考え、小グループで話し合っってより良い考えを決めることができる。	よく噛んで食べることの大切さを理解して目標を設定し、自分から進んで実践していこうとすることができる。

4 指導計画

	日 時	活 動 内 容
本時	6月16日(木)	○よく噛んで食べると歯や体全体の健康につながることを知り、よく噛んで食べるためにどんなことができるかについて考える。
事後	6月16日(木)～ 6月22日(水) 6月23日(木)	○目標を意識して給食を食べるようにする。 ○噛み噛みチェック表に1週間取り組む。 ○噛み噛みメニューを考えよう。(家庭科)

5 本時のねらい

よく噛んで食べると、唾液の分泌が促され、全身の健康によいことを知り、よく噛んで食べるためにはどのような工夫をしたらよいか考えることができる。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つかむ	1 咀嚼力判定ガムを噛んで色の変化を見る。	○咀嚼力判定ガムを普段通りに噛ませ、色の変化をワークシートに記入させる。(T1) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">よく噛んで、健康なからだを目指そう</div>	
ふかめる	2 唾液の効果とよく噛んで食べると体によいことを知る。	○唾液の主な成分と働きについて説明する。(T3) <説明の概要> ・唾液は口の中を洗い流す。 ・むし歯を作る酸を中和する。 ・カルシウムがごく初期むし歯を治す。 ○よく噛むとよいこと「ひみこのはがいーぜ」について説明する。 <説明の概要> ・胃・腸への負担が減り、消化がよくなる。 ・脳への血流が増え、脳が活性化する。 ・満腹感が得られ、食べ過ぎを防止できる。 ・味わって食べることができる。	

ひろげる	<p>3 噛み噛み実験をする。</p>	<p>・くいしばることで、力を発揮しやすい。</p> <p>○食材（食パン・フランスパン）を噛んだ様子をワークシートに記入させる。(T1, T2) 食パンとフランスパンを飲みこむまでに噛んだ回数・出た唾液の量・あごの動きを感じながら違いを意識して食べるように指導する。</p>	<p>◇軟らかい食品と硬い食品の噛む回数やあごの動き、唾液の出方などの違いを感じることができる。[ワークシート]</p>
	<p>4 よく噛んで食べるためにどんなことができるかを考える。</p>	<p>○普段の自分の食生活を振り返らせてから考えさせる。(T1)</p> <p>○意識して噛む回数を増やすためにはどうしたらよいかについて考えさせる。(T1)</p> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一口30回かむようにする。 ・食事の時間をゆっくりとるようにする。 ・味わって食べるようにする。 ・硬い食べ物を選んで食べるようにする。 ・調理する時、硬めにゆでたり、食材を大きめに切ったりする。 <p>○一人一人が表現できるように小グループで話し合わせる。(T1)</p> <p>○それぞれの意見を発表ボードにまとめることで、自分の意見と他の児童の意見を比較しやすくする。</p> <p>○小グループでより良い考えを一つに絞っていく話し合いをさせる。(T1)</p> <p>○発表ボードを黒板に貼り、全体で発表する。</p>	<p>◇よく噛んで食べるための方法を考え、小グループで話し合ってより良い考えを決めることができる。[ワークシート, 発表]</p>
つなげる	<p>5 よく噛んで食べるための目標を決める。</p>	<p>○自分に合ったよく噛むための目標を決めさせ、ワークシートに書かせる。(T1)</p> <p>○他の児童のアイデアや意見も取り入れながら自分に合った方法を見つけられるように支援する。(T2)</p>	<p>◇よく噛んで食べることの大切さを理解して目標を設定し、自分から進んで実践していこうとすることができる。[ワークシート]</p>
	<p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>○かみかみチェック表を1週間実践することを伝える。(T2)</p>	

7 準備物

ワークシート 発表ボード 咀嚼力判定ガム 食パン フランスパン

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

授業の導入で咀嚼力判定ガムを噛み、色の変化を見ることで、自分がふだんどれくらい噛んでいるかを知ることができた。ガムの色が混ざっていないところや色があまり変化していない児童もあり、噛むことへの意識づけができ、本時のめあてにつなげることができた。

また、噛み噛み実験で食パンとフランスパンを食べ比べることで、噛む回数、唾液の出る量やあごの動きの違いを感じることができた。多くの児童はフランスパンを食べた時の方が回数や唾液の量が増え、あごの動きが大きくなり、よく噛んで食べることの大切さが伝わった。



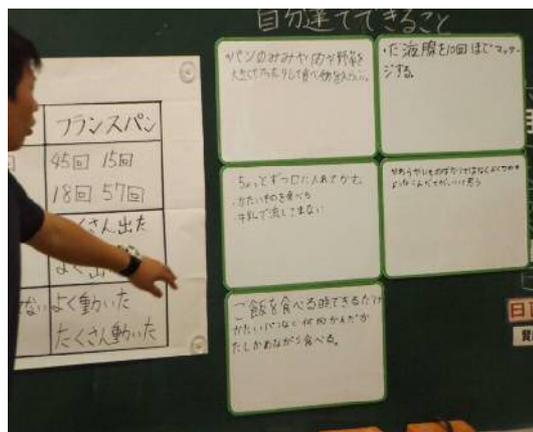
(2) 専門的な知識を生かしたT・T指導

養護教諭から、スライドを使って唾液の働き（食べ物を飲みこみややすくする。歯をきれいにする。むし歯になりにくくする。歯をなおす。）を伝えた。「ひみこのはがいで」について説明し、よく噛んで食べることが全身の健康につながることも伝えた。「ひみこのはがいで」は、栄養教諭から給食時の栄養指導を覚えていた児童も多く、連携指導の効果を実感した。

(3) 自ら考え、学び合う場の設定

個々の児童の普段の食生活を振り返らせてからよく噛んで食べるためにできることを考えさせた。その結果、あまり噛んでいないという児童が多かった。自分たちができることの工夫では、「野菜を大きめに切る」「硬いものを食べる」「牛乳などで食べ物を流し込まない」など様々な意見がスムーズに出ていた。

グループでの話し合いでもお互いの意見を聞きながら、ほとんどのグループが一つの意見にしぼってまとめることができていた。「噛み噛み献立を考える」という意見を発展させ、事後に家庭科で噛み噛みメニューを考えて、調理実習を行った。



平成27年12月7日(月) 第2校時 にこにこ教室 指導者 T1 小林 幸子

T2 佐栞 信也

GT 兼本 郷美歯科衛生士

1 題材名 よく噛んで食べよう

内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

(カ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

「よく噛んで食べること」を習慣化することにより、子どもたちの肥満予防、歯と口の健康はもちろん、体の健康づくりをめざすことになる。よく噛むことによって、唾液をたくさん分泌させることを実体験させ、それが、歯を守るために大切なポイントであることを理解させたいと考え本題材を設定した。

○児童の実態

本学級は特別支援学級(知的)で、男子4名、女子1名の5名が在籍している。どの児童も「今日の給食は何か？」と献立を確認するほど給食を楽しみにしている。しかし、薬の副作用のため食欲がおちていたり、偏食がひどかったりする児童がいる。左右で噛めている児童もいるが、口唇が閉じない児童もいる。また、あまり噛まないで早く食べて、口の中に次々と食べ物を入れている児童もいる。

2年生A児B児は、6月に「永久歯を大せつに」(交流学級活動)を学習して、永久歯の大切さを感じ、大切にしようとする態度が養われた。気分がのるといねいに歯みがきができていた児童や歯ブラシを持ってみがきだした児童がいる。

4年生C児D児は、6月に「正しい歯のみがき方」(交流学級活動)で学習し、歯科衛生士による指導で正しい歯のみがき方の意識づけができた。11月に「むし歯のないピカピカの歯をめざそう」(交流学級活動)を学習して、どうすればむし歯の予防ができるか理解できた。「砂糖の量に気を付け、砂糖を食べたら、すぐにみがく。」や「3分間歯みがきをする。」という目標を立てて取り組んだ。

5年生E児は、養護教諭による個別指導を受け、正しくみがこうという意識づけができた。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

唾液の分泌を促す「お口の体操」を行うことによって、楽しく体を動かし、発音することで知らず知らずのうちに唾液の分泌を促す。

咀嚼力判定ガムを使って実際に「かみかみ実験」をすることで、自分はよく噛めているのかどうかを知り、噛むことが大切であることを意識づける。

(2) 専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

歯科衛生士から、よく噛むことによって、唾液をたくさん分泌させることが、歯を守るための大切なポイントであるという話を聞いたり、噛み方の指導をしたりしてもらう。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

児童が自分で考えて決める活動を設定する。その際、活動シートを一人に一枚ずつ用意し、自分の考えをまとめやすくする。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
自分の噛む力が強いか弱いかを感じることができる。	「よく噛むこと」の必要性や大切さについて知り、よく噛んで食べるためにはどうすればよいかを考えることができる。	自分の食事の仕方に関心を持ち、進んでよく噛んで食べるようになる。

4 指導計画

	日 時	活 動 内 容 等
事前	随時	唾液の分泌を促す「お口の体操」をする。
本時	12月 7日	よく噛むことの大切さを理解し、よく噛んで食べる方法を決める。
事後	12月 7日～ 12月10日	意志決定した行動を実践できているかどうかを振り返る。(チェックシートに記入する。)

5 本時のねらい

「かみかみ実験」を通して、噛むことの大切さを理解し、よく噛んで食べる方法を考える。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つ か む	1 唾液の分泌を促す 「お口の体操」を行 う。	○学習に入りやすくするため体を動かし、 発音して、知らず知らずのうちに唾液の 分泌を促す。(T 1)	
	2 学習課題について 知る。	よく噛んで食べる方法を決めよう	
	3 ガムを使って「か みかみ実験」をする。	○咀嚼力判定ガムを1分間噛み、ガムの色 の変化を活動シートに書かせる。	◇自分の噛む力が強 いか弱いかを感じ ることができた か。[観察]
ふ か め る	4 「噛むこと」の必 要性や大切さにつ いて知る。	○G T 歯科衛生士に「よく噛む」とどん なよいことがあるのかを分かりやすく話 してもらい、噛み方の指導をしてもら う。パネルシアターを使って、前歯を 使う肉食系の動物、奥歯を使う草食 系の動物について紹介し、人間は前 歯と奥歯を使って噛むことができ ることを知らせる。	
ひ ろ げ る	5 よく噛むために自 分でできることを考 えて選ぶ。 ・振り返る。 ・「かんとん」か「ま あまかんとん」か「む ずかしい」か考える。 ・選ぶ。	○自分の食べ方を振り返り、よく噛んで食 べるために自分が実行できそうなこと を考え、選ばせる。 その際、「かんとん」「まあまかんとん」 「むずかしい」を例をあげることで意 思表示させる。 ○A 児やB 児は支援が必要な場合は、教 師と一緒に考えて選ばせる。(T 1) ○C 児, D 児, E 児はできるだけ自力で選 ばせる。(T 2) ○選んだ方法や選んだ理由を紹介し合 い考えを広げる。	◇噛むことの必要 性や大切さにつ いて知り、よく 噛んで食べる ためには、ど うすればよいか を考えることが できたか。[ワー クシート]
つ な げ る	6 本時のまとめをす る。	○本時の学習を振り返り、意志決定した行 動を今日から実践できるよう意欲付け する。	

1 題材名 よくかんでたべよう

内容(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

(カ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

よく噛んで食べることは、あごや口のまわりの筋肉を発達させ歯並びをよくしたり、消化などの大切な働きを促進したりする。しかし、食生活の変化により、日頃児童が口にするものは、軟らかく食べやすいものが多い。低学年の児童は、永久歯に生えかわりはじめている時期である。この時期に、前歯・犬歯・奥歯の役割を知り、消化のためや味わうためによく噛んで食べるのが大切である。

○児童の実態

1年生6名、2年生15名(内特別支援学級在籍2名)である。永久歯への生えかわりを迎えている時期で歯への関心が高まっている。これまでに、生えかわり時期の歯を大切にすることや歯のみがき方について学習してきている。本題材を学習するにあたり、児童の実態調査をした結果は以下の通りである。

- ・よく噛んでいますか。 ①はい18人②いいえ2人③わからない1人
- ・よく噛むことは大切なことだと思いますか。①はい20人 ②いいえ0人③わからない1人
- ・硬い物をよく食べますか。 ①はい14人 ②いいえ7人
- ・硬い物と軟らかいものでは、どちらが好きですか。①硬いもの12人②軟らかいもの9人
- ・一口、何回噛んでいますか。 ①10回8人②20回8人③30回5人
- ・好きな食べ物は何か。 ①カレー ②ラーメン ③うどん

以上の結果より、よく噛むことが大切で自分ではしているつもりでも、実際にはあまりよく噛まなかったり、流し込んで食べたりしている児童が多い。また、好きな食べ物として、カレーや麺類などあまり咀嚼しないで食べることのできる物を好む児童が多いように見える。

そこで、本時は、歯の種類と役割を知った後、話し合いや体験活動を通して、それぞれの歯の役割に合わせてよく噛んで食べることを意識させたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

低学年の児童は集中したり考えたりすることが長続きしにくいいため、パネルシアターを使って、前歯を使う動物、犬歯を使う動物、奥歯を使う動物を紹介しその歯の役割を理解させる。その上で、人間はそのどの歯も生えていることでのいろいろな食材が食べられることを気づかせる。また、実際に食材をよく噛んで食べる体験を通して、いろいろな歯を使って切ったり、すり潰したりしていることや、よく噛んで食材を味わおうとすることを意識させていきたい。

(2) 専門的な知識を生かした T・T 指導の工夫

養護教諭の指導により自分たち自身が歯の模型を作ることで、歯の種類や形を明確にさせる。事後には、栄養教諭から食に関する話を聞き、消化吸収や食品の本来の味を感じるためによく噛んで食べることが大切であるということを意識させる。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

児童が自分の考えを持つ時間をとり、考えたことを表現する場を設定する。その際、自分たちが作った歯の模型を用いることで、歯の種類と役割について自分の考えを表現しやすくなるようにする。発表シートを利用して自分の考えをまとめたり発表したりしやすくさせる。発表された意見に相づちを打ったり前向きな言葉かけをしたりしながら聞くことを徹底させる。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
歯の形によって役割が違うことに気づく。	自分たちには、前歯・犬歯・奥歯があり、それぞれの歯の役割について話し合うことができる。	これからの食事の際、それぞれの歯の役割に合わせてよく噛んで食べようと意識することができる。

4 指導計画

	日時	活 動 内 容
事前	1 月中 2 月 3 日 (水)	○噛むことについてのアンケート (実態調査) をする。 ○乳歯・永久歯の名称 (まえば・いときりば・おくば・だ いー大きゅうし) を思い出す。 ○それぞれの歯の形状を意識させて紙粘土で作る。
本時	2 月 9 日 (火)	○歯の種類と役割を知ってよく噛んで食べる。
事後	2 月 10 日 (水) ~ 2 月 16 日 (火)	○1 週間、前歯・犬歯・奥歯を使って食べた食品を記入し ていく。 「〇〇週間」(児童と一緒に考える。) ○目標を意識して給食後に記入する。 ○よく噛んで食べることが消化吸収や食品本来の味を感 じるために大切であることを知る。

5 本時のねらい

歯の種類と役割を知って、よく噛んで食べるよう意識する。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つかむ	1 学習課題について知る。	<p>○事前に作った歯の模型を見て、前歯・犬歯・奥歯の違いを見つけさせる。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前歯は薄い。 ・犬歯はとがっている。 ・奥歯は臼の形をしている。 	
	<p>はのしゅるいとやくわりをして、よくかんでたべよう。</p>		
ふかめる	2 動物の歯の種類と役割を知る。	<p>○パネルシアターを使って前歯を使う動物・犬歯を使う動物・奥歯を使う動物を紹介し、その歯の役割を理解させる。(T1, T3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前歯：リス→噛み切る。 ・犬歯：ライオン→噛みちぎる。 ・奥歯：牛→すりつぶす。 ・なし：蛇→丸飲み。 <p>○多くの動物は、雑食でないことを確認させる。(T1)</p>	◇歯の形によって役割が違うことに気がつくことができる。[観察]
ひろげる	3 人間の歯の種類と役割について話し合う。	<p>○自分たちの作った歯の模型を見ながら、人間の歯の種類と役割を動物と比較しながら考えさせる。(T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前歯はリスの歯に似ているね。 ・犬歯はライオンと同じだ。 ・臼の形をした奥歯は牛の歯みたいだね。 ・人間の歯にはいろんな種類があるね。 <p>○なぜ人間には前歯・犬歯・奥歯(臼歯)があるか考えて、シートに書かせて話し合わせる。(T2)</p> <p>○考えが持ちにくい児童には例示を挙げ、自分の考えを表現しやすくさせる。(T1, T3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間は肉も野菜も食べられる。 ・硬いものでもすり潰して食べられる。 ・いろいろな食材が食べられる。 	◇自分たちには、前歯・犬歯・奥歯があり、それぞれの歯の役割について話し合うことができる。[観察・発表]
実践	4 実際に食品を食べる。	○リンゴとするめを、どこの歯で噛んでいるか意識させ、食べてみる。	

する		<p>○噛み始め, 途中, 飲み込む前, 使っている歯がどこかを確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噛み始めは前歯 ・途中, 奥歯ですり潰している。 ・よく噛めば, 食材の味がよくわかる。 	
つなげる	5 本時のまとめをする。	<p>○学習の振り返りをさせる。(T2) (板書 T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの歯も大切なことがわかりました。 ・歯の形によって, 役割があることがわかりました。 ・よく噛んで食べるとおいしい。 ・どの歯も使って, よく噛んで食べる。 <p>○事後1週間, 前歯・犬歯・奥歯を使って食べた食材を記入していくことを知らせ, グループごとに「○○週間」の名前をつけさせる。(T2)</p>	◇これからの食事の際, それぞれの歯の役割に合わせてよく噛んで食べようと意識することができる。[発表]

7 準備物

歯の模型 (自作) パネルシアター りんご すもも 紙皿 ウェットティッシュ
発表シート ホワイトボードマーカー ○○週間カード

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

パネルシアターを使うことが児童の発達段階に合っていたため, 動物の歯の種類とその役割を理解させることができた。パネルシアターに出てくる動物の口を開閉できるようにしたことにより分かりやすくすることができた。前歯を使う身近な動物としてリスを登場させたが, 「噛み切る」というより「かじる」という役割を想起させ, 人間の前歯の役割につなげるためには, 少し差違があった。

実際にリンゴとすももを食材として食べることで, 噛み始めは前歯や犬歯を使い, 噛み続けるうちに奥歯を使い出していくようになることを体験的に理解させることができた。

前時に自分たちで作った歯の模型にどの動物の歯に似ているかシールを貼っていくことで, 人間にはいろんな種類の歯があることを視覚的に理解させることができた。また, 教師の話聞くだけでなく作業を入れたことで興味・関心が継続した。



(2) 専門的知識を生かしたT・T指導の工夫

事前に養護教諭から、歯の形や歯並び、歯の名称などについて教わり、歯みがきの際に注意しなければならないことを学習していた。そのため、児童は、歯についての意識が高まり、関心を持つようになっていた。また、歯の名称も、第一大臼歯など専門的な名前が定着していた。そういった積み重ねの上に今回の授業があり、児童は、歯の役割について客観的にとらえることができたので、理解もスムーズに進んだ。また、栄養教諭の作る献立も、噛むことを意識させるような食材を選んだものが随所にあり、給食時間に、子どもたちが歯の役割を意識して食べることに大いに役立った。中には、「よく噛むと味が変わる。」という感想をもった児童もあり、中学年の学習につながることもなっている。

(3) 自ら学び合う場の設定

今回の授業は、普段ではあまり経験のない1・2年合同の授業だったこと、机をあわせてグループで学習形態を取っていたこと、参観日だったことなど、日常的ではない状況での授業だった。そうした中で、「どうして、いろんな動物の歯があるのでしょうか。一人ずつ考えて、ボードに書きましょう。」という発問をした。発問自体が、子どもたちの自由な発想を促すものではなかったこと、日常的にやってきた書く活動の時と、場の設定が違っていただけなど、多くの児童の思考が深まりにくかった。グループの形で学習していたので、最初から話し合い活動を取り入れ、一人一人意見を出させる方が効果的だったのではないかと思われる。

また、1、2年合同の学習自体に慣れていないために、考えを表現できなかった児童もいたと推測できる。普段から低学年合同の授業を機会あるごとに設定し、こうした学習形態を取り入れていく必要がある。



(4) 「〇〇週間」の取組

事後、1週間（4日間）「〇〇しゅうかん」の取り組みをした。給食のメニューを口にしながら、「前歯を使って噛み切った」「奥歯ですりつぶしている」など、どの歯で食材を噛んでいるのか意識しながら給食を食べた。栄養教諭もこの週間に合わせて噛みごたえのあるものを取り入れて献立をたててくれた。野菜が少し苦手という児童も、どの歯で噛んでいるかということに注意が向いて、いつもより進んで口に運んでいた。また、普段しっかり噛まない児童も、前歯や犬歯、奥歯を意識することで、噛む回数が増えたように思う。「歯の役割やどの歯も使って顎を動かして食べていることや、そのことで体を元気にするのがわかりました。(児童)」「家では、野菜や硬い物を好んで食べようとしないので、学校でいろいろな物をしっかり噛んで食べられていることに驚きました。これから『噛む』をしっかり意識して食べてもらいたい。(保護者)」という感想があった。参観日の授業ということで、児童だけでなく保護者にも「歯の種類と役割」「噛む」ことの意識づけになった。今後はこの意識を継続させていけるよう取り組んでいきたい。

第3・4学年 学級活動学習指導案

平成28年2月9日（火）第5校時 ランチルーム 指導者 T1 住岡 章子
T2 岡田 紀子
T3 鳥越 厳之

- 1 題材名 おいしく食べるひみつをさがろう
内容（2） 日常生活や学習への適応及び健康安全
（カ） 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

児童はこれまでに学級活動の時間や、給食時間、健康集会等で、『ひみこのはがいーぜ』を用いてよく噛むことのよさについて学習をしてきた。

本題材では、特に、味覚の発達についてとり上げる。よく噛み唾液がよく混ざると、舌の感覚器官である味蕾（みらい）で味を感じることができる。子どもは、舌全体に味蕾の細胞があり、大人より敏感に感じ取ることができる。しかし、野菜不足、ファーストフードなどの加工食品のとりすぎや、味覚経験・判断情報がうすい児童にとって、不快・まずい、嫌いな食べ物と決めつけている場合がある。「おいしく食べる」とは、よく噛んで味わって食べる以外にも「おいしい！好きだ！」と感じる因子は多くある。食品の香りや固さ、温度、盛り付け、子どもの健康状態、精神状態、食事の環境や雰囲気など、様々な感覚器官から脳に情報が入り、食欲も変化していく。心身健康な体をつくるには、このような条件を満たしよく噛んで楽しく食べることが大切であると考え。

○児童の実態

第3学年の児童は12名である。今までに「おやつとり方」「歯みがき名人になろう」の学習をしてきた。自分の歯について関心をもち、改善に努力してきている。第4学年の児童は16名（内特別支援学級在籍2名）である。10月から11月にかけて「むし歯のないピカピカ歯をめざそう」という題材で学習をしてきた。題材を通して、ていねいな歯みがきをしたり、糖分の多く含むおやつを少なくしたりと、自分の歯を大切にしようとする児童が増えた。

食材を味わってしっかり噛んで食べることの重要性に関しては、3、4年ともに理解しているものの、実生活と結びつけている児童は少ない。給食時も、あまり噛むことをせずに、飲み込むようにして食事を摂る児童が多い現状である。

そこで、本時は、ただ食べるだけでなく、味覚と向き合い楽しく味わってよく噛んで食べることは、心身の健康につながり、幸せに生きるため（衣食住）の大切な一つであることを押え、生活改善のきっかけにしたいと考える。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

五感を使って、実際に粉々にしたせんべいと固形のせんべいを食べ比べさせる。それにより、歯を使ってよく噛んで食べると、味がよく分かり、食べる楽しさが増したり、おいしさの増長になったりすることを体験させる。

(2) 専門的な知識を生かした T・T 指導の工夫

事前では、栄養教諭から噛むことの大切さを『ひみこのはがいで』を使って、学習することで、噛むことについて、より具体的にイメージが持てるようにする。本時では、特に味覚の発達に重点を置いて、専門的な立場から指導をしていくことにより、その大切さについて理解できるようにする。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

4人ずつのグループで、粉々にしたせんべいと固形のせんべいについて、五感を使って食べ比べをし、カードに記入をしていく。グループでの話し合いでは、司会、記録を立てることにより話し合いが円滑に進むようにさせる。7グループ分のカードが出揃った後、粉々のせんべいと固形のせんべいを比べて気づいたことを発表し合い、同じ素材でも違いが意識できるようにする。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
栄養教諭の専門的な話を聞き、よく噛んで味わって食べるものの大切さに気づく。	五感を使い食材の特徴、おいしさ、噛むことの大切さを話し合うことができる。	健康的に生活するために、食材をよく噛んでおいしく食べようと意識することができる。(生活改善)

4 指導計画

	日時	活動内容
事前	2月 8日	○ひみこの8大効果「ひみこのはがいで」の学習をし、噛むことの大切さを理解する。
本時	2月 9日	○よく噛んでおいしく食べようと意識する。
事後	2月10日～ 1週間	○給食を意識しながら食べ、感想をもつ。

5 本時のねらい

五感を使って、楽しく味わって、よく噛んで食べることは、心身の健康につながるとがわかる。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つ か む	1 前時の振り返りをする。 2 学習課題について知る。	○前時までの学習『ひみこのはがいで』を振り返り、よく噛むとのよさを確認させる。(T1) ○『ひみこのはがいで』の味覚の発達について深めていくことを知らせる。舌の感覚味蕾、五基本味説(甘味・塩味・酸味・苦味・うまみ)にも触れておく。(T1)	
ふ か め る	3 五感を使って、せんべいの(粉々・固形)食べ比べを行い、グループで話し合う。	<div data-bbox="411 562 1155 607" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;">おいしく食べるひみつをさがろう</div> ○五感(目、耳、手、鼻、口)を使い、粉々にしたせんべいと、固形のせんべいを食べ比べする。グループで話し合い五感カードに記入していく。(T1) ・粉のせんべいは、醤油のにおい、ざらざら、きな粉みたい。 ・固形のせんべいは、醤油せんべい、かたそう、香ばしい、ばりばりいいそう、このままでは食べられない(細かく噛む。)	◇五感を使い食材の特徴、おいしさ、噛むことの大切さを話し合うことができる。[発表]
ひ ろ げ る	4 3で考えたことをもとに全体で発表し合う。 5 おいしく食べるひみつをまとめる。	○各グループで記入した五感カードを分類して前へ貼る。(T2) ○五感カードをもとに粉々と固形のせんべいを比べて気づいたことを発表し合わせることで、違いを意識させる。(T3) ・せんべいはバリバリと歯を使って食べる方がおいしい。 ・粉は食べた気がしない。せんべいは固形がいい。	◇健康的に生活するために、食材をよく噛んでおいしく食べようと意識することができる。[ワークシート]
つ な げ る	6 感想を書く。	○本時で学習したことで気がついたこと、学んだことを記入する。(T2)	

7 準備物

「ひみこのはがいで」のポスター せんべい（粉々と固形） せんべい入れ物（粉々用と固形）
スプーン グループ用の五感カード 個人の感想シート 「よくあじわって食べよう」カード
ひ 肥満を防ぐ み 味覚の発達 こ 言葉、発音の発育 の 脳の発達 は 歯の病気予防
が ガン予防 い 胃腸の快調 ぜ 全力投球

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

五感を使って実際に粉々にしたせんべいと固形のせんべいの食べ比べを行った。その結果、同じ食材でも、五感を使うといろいろな違いを見つけることができた。

またグループで交流することで、感じ方の違いをより理解することができた。特に固形のせんべいについては、よく噛むことで味わいが増し、改めてよく噛んで食べることの大切さを感じる事ができた。



(2) 専門的な知識を生かした T・T 指導の工夫

「ひみこのはがいで」を栄養教諭から事前に学習し、噛むことの良さを理解させた。本時では甘味・塩味・酸味・苦味・うまみなどの味覚の発達について重点を置いて指導した。授業後半では、味覚の発達及び噛むことの大切さについて、栄養教諭より説明を受けた。児童は「よく噛むことは、唾液を分泌させうまみを感じる」「味覚経験を増やすことで食感の発達を助け、健康な身体をつくる」ということを理解した。



(3) 自ら考え学び合う場の設定

グループごとに五感を使って感じたことを話し合い、意見をまとめてカードに書いた。そのカードをもとに、各グループから出た意見を整理し、全体で話し合った。「固形の方が素材の味が残っている」や「硬いので口の中に入っている時間も長く、噛む回数が多いので味がわかってよい」など感じ方はそれぞれであるが、一人一人の考えをグループでまとめることにより、固形や粉のせんべいの味わいを深く感じ取ることができた。



(4) 「よくあじわって食べよう」カードの取組

給食の時間に、おいしく食べるために五感を使ってよく味わって食べる取組を1週間続けた。児童は取組に関心を持ち、しっかり味わって食べていた。それが会話や感想カードにも表れていた。



第5・6学年 学級活動指導案

平成28年2月9日(火) 第5校時 5年教室 指導者 T1 朽山 美恵子
T2 福田 雅人
T3 春名 志保
T4 寺坂 友希養護教諭

1 題材名 歯肉炎を予防しよう

内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全
(カ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 指導上の立場

○題材について

児童はこれまでに学級活動の時間で、歯の構造やむし歯の原因について学習したり、歯科衛生士から歯みがき指導を受けたりしている。しかし、歯周病については、具体的な症状や怖さ、予防の仕方については知識のない児童が多く、食生活や生活習慣により、この時期の被患率は高くなっている。生涯健康的な歯を維持し続けることの大切さを意識させる必要がある。本題材では、児童自身が自分の歯肉の様子を観察し、話し合い活動を元に自分にできる歯肉炎予防の歯のみがき方の目標を決め、実践の習慣化を図るために、この題材を設定した。

○児童の実態

本授業では、6年生8名、5年生14名である。10月の歯科検診の結果、

	むし歯	歯肉炎
6年生	0人	2人
5年生	4人	3人

という状況である。永久歯の生えかわりを終えつつある高学年は、永久歯のむし歯予防と共に、歯肉炎予防が必要なことがうかがえる。

年度当初に比べ、歯みがき指導や健康委員会による集会・給食後の歯みがきチェック、歯みがきチャレンジカードの取組や、ストップウォッチ、手鏡の個人使用などにより、給食時間後のていねいな歯みがき習慣の意識は高まりつつある。

今後は、家庭でのていねいな歯みがき習慣の定着と、歯肉炎予防を意識した歯みがきの実践に取り組みせていきたい。

本授業では、特別支援学級に在籍する児童が1名参加する。授業の流れを黒板に提示し、常に見通しや今の活動がどの学習場面なのかを視覚化し、安定して集団の中で活動できるようにしたい。グループ分けや受容的な雰囲気作りにも十分配慮していきたい。

○本題材の指導で工夫する点や手立て

(1) 体験的な活動の工夫

自分の歯肉を観察し、客観的に現状を知ること、危機意識を持ち、より良い歯や歯ぐきの環境をつくりたいという意識を持たせていく。これまでの学習で、歯ブラシの持ち方や、歯のみが

き方などを知っている。実践化に結びつけるために、「歯肉イキイキ週間」を設定することで、自分にできる自分に合った歯肉炎予防のための歯みがきを意識させ、成功体験をもとに定着を図っていきたい。

(2) 専門的な知識を生かした T・T 指導の工夫

事前に、養護教諭から歯の名称や歯の構造について確認を行い、本時の歯肉炎の予防に向けてより具体的にイメージを持てるようにする。本時では、養護教諭が歯周病の原因や進行についてのスライド説明により、「8020運動」を目指した歯肉炎予防の大切さを理解させる。歯や歯肉の模型を用い、歯を支える歯肉や歯槽骨を健康に保つ歯のみがき方を考えられるようにしたい。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

個人でのチェックから、小グループでの討議そして、全体発表へと広げていく中で、個や集団の良さを認め合いながら、学習を進めていく。自分の考えを書くことを大切にし、見つけたこと、わかったこと、思ったこと、これからどうするかということのステップで、個人のワークシートをもとにグループで発表ボードにまとめ、全体で発表することにより、学習の足跡を残すことができるように心がけたい。

3 評価規準

ふれあい関わる力	自ら考え学びつくり出す力	自己を見つめともにより良く生きる力
自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いて質問をしたりするなど積極的に話し合いに参加しようとしている。	自分の歯肉の様子を正しく捉え、自分に合った歯肉炎を防ぐ歯のみがき方について、考えることができる。	自分にでき、自分に合った歯のみがき方を決定し、実践することができる。

4 指導計画

	日時	活 動 内 容
事前	2月 4日 (木)	○これまで学習してきた内容の復習 ・歯の正しい名称 ・むし歯の原因 ・むし歯にならないための歯のみがき方の工夫 ○歯の構造について知る。(エナメル質, 象牙質, セメント質, 歯槽骨, 歯肉)
本時	2月 9日 (火)	○自分に合った歯肉炎予防のための歯みがきの仕方を考える。
事後	2月10日 (水) ~ 2月16日 (火)	○「歯肉イキイキ週間」の設定 ・本時で決めたみがき方の実践を、チェックカードを使いながら1週間記録する。

5 本時のねらい

歯周病の進み方について理解する。

自分の歯肉の実態を知り、自分に合った歯肉炎予防のための歯のみがき方を考え、実践しようとする。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
つかむ	1 歯周病の原因や進行について知る。	○歯周病について説明する。(T4) ・歯肉に炎症が起こり、歯槽骨がとけて、歯が抜けてしまうことを知らせる。 ・歯肉炎は歯みがきで治ることをおさえ、実践への意欲を高めることができるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分に合った歯肉炎予防のための歯のみがき方を考えよう </div>			
ふかめる	2 自分の歯肉を手鏡で観察し歯肉の色、形などをワークシートに記入する。	○手鏡を配布し、歯肉の様子について観察させ、ワークシートに記入させる。(T1) ・健康な歯肉と歯肉炎になった歯肉の違いを示し、自分の歯肉の様子と比較することができるようにする。(T2, 3, 4)	◇自分の歯肉の様子を正しく捉えることができている。[ワークシート, 観察]
ひろげる	3 歯周病を予防する歯のみがきかたについて考える。	○歯垢が残りやすいところを考えさせ、どのようにみがいたらよいかについて3, 4人のグループで考えさせる。(T1) ・ワークシートに書いた自分の歯肉の様子をもとに、みがき方の工夫を説明することで、より主体的に取り組もうとすることができるようにする。(T3) ・自分の歯肉の状態がよい児童については、普段のみがき方を説明したり、工夫したみがき方を提案させたりすることで、具体的な考えを持つことができるようにさせる。	◇歯周病予防のためのみがき方を考え、説明を合せている。 [ワークシート発表]
	4 歯周病を予防する歯のみがき方を全体で発表する。	○発表ボードに記入したものを黒板に貼り、グループで出たみがき方を、歯の模型を用いてどのようにみがくか説明させる。(T1) ・友達の工夫を聞き合うことで、自分にできて、自分に合った歯のみがき方を決めることができるようにする。(T3)	
実	5 自分たちで考え	○みがいている様子を個別指導を行う。	

実践する	た歯のみがき方で鏡を見ながらみがいてみる。	(T2, 3, 4)	
つなげる	6 本時の振り返りをする。	<p>○「歯肉イキイキ週間」を設定し、自分が決めた歯肉を守る歯のみがき方を実践していくように伝える。</p> <p>・本時の学習をもとに、「歯肉イキイキ週間」に向けて、自分の取組のめあてをワークシートに記入させ、実践への意欲を高めることができるようにする。</p>	

7 準備物

手鏡 歯ブラシ 歯の模型 歯みがきコップ 牛乳パック ワークシート 発表ボード

8 反省と考察

(1) 体験的な活動の工夫

健康な歯ぐきと歯肉炎の歯ぐきの写真を提示した上で、鏡を見て自分の歯ぐきをチェックさせるようにした。予備知識として歯ぐきの様子を知ってから自分の歯をチェックすることで、より体験活動が有効なものになった。自分の歯肉の様子をシートに書くことで次の話し合いへの準備ができ、みがき方の工夫について、より身近なこととして考えることができた。発表ボードや大型の歯の模型を使って説明することで、アイデアの共有化ができた。しかし、毛先がフェルトに引っかかることがあり、スムーズに動かすことが難しかったので、さらに工夫していくことが必要である。話し合った内容をもとに自分に合った歯のみがき方を授業の中で実践してみる時間を設け、指導者からのアドバイスも受けることができた。



事後の活動としての「歯肉イキイキ週間」の自分のめあてまで決めることができ、次への実践へつなぐことができた。

(2) 専門的な知識を生かしてT・T指導の工夫

高学年ではあるが、歯の生えかわりや名称などの基本を改めて学習してきた。また、歯の構造やむし歯の原因・進行について知ることで、歯みがきの重要性に気づき、危機感を持って取り組むことができた。事前の指導では、歯垢染め出しをして、みがき残しのチェックをした。自分のブラッシングの不十分な部分を意識して歯みがきをすることができるようになってきた。歯周病の原因や進行について具体的に教えてもらうことで、より自分と自分の未来の問題であるととらえることができた。歯肉炎は、正しい歯みがきで治せることを学ぶことで、実践

意欲が高まった。

(3) 自ら考え学び合う場の設定

個々の歯ぐきの状態を紹介し合うことで、お互いの問題点をアドバイスし合う場にできた。良い歯肉状態の児童も、自分のブラッシングの良さを考え説明することで、自信を持ち、今後も継続して取り組む意欲につなげることができた。

6年生がリードし、グループの意見を見やすくまとめることができた。発表ボードで紹介することで全員が共有化でき、自分に合っためあてを決めることができたのではないかと。発表の役割分担も自分たちで考え、全員が「発表者」と「歯のみがき方の提示者」の役をして発表できた。



(4) 「歯肉イキイキ週間」カードの取組

事後の活動として、学習事項を実践する「歯肉イキイキ週間」を設定した。自分で決めた目標をもとに、1日3回の歯みがきに取り組んだ。学校では、給食後の歯みがきに意欲的に取り組めるようになってきているが、家庭での歯みがきは、意欲や家庭のサポートの有無により個人差が大きかった。今回の取組では、歯肉炎を防ぐという具体的な目標を自分で設定しているため、従来の歯みがきカードの取組に比べ達成率が高かった。意識して歯をみがいたり、歯ぐきを意識したみがき方に注意したりしたという反省が多く見られた。ただ、家庭との連携がもう一歩である。カードに取組の様子や一言メッセージを書いてもらっているが、より関わりを持ってもらえる取組をしていく必要がある。親子や家族での歯みがきタイムの設定をはじめ、一緒に活動できるようなものを提案していきたい。

学級活動の取組

(1) 歯科衛生士の指導

6月8日、歯科衛生士を招き、正しい歯みがきについて指導をしてもらった。単にみがくだけでなく、歯と歯茎の間を意識してみがくことや自分の歯や口の中をしっかりと観察する必要があることなどを教わった。事後、給食後の歯みがきで、以前に比べてゆっくりていねいにみがこうとする児童が見られるようになった。保護者も何名か参観し、一緒に歯科衛生士の話を聞いたことで家庭でのサポート意識が高まった。



(2) ストップウォッチを利用して

「3分間みがこう」というテーマで給食後の歯みがきを進めてきたが、大きな掛け時計しか

なく、3分以上みがくことができない児童も見られた。そこで、6年生では、個々にストップウォッチを持たせ、タイムを自分で計測させながら歯みがきをすることにした。タイムを計ることで、時間いっぱいみがくことができるようになり、全員が落ち着いて歯みがきに取り組めるようになった。当初「3分間って、結構長いなあ。」と言っていた児童も、継続することでみがいた後の気持ちよさを感じられるようになってきた。全校での1人1つ手鏡を見ての歯みがき指導とも合わさって、3学期の学習の「歯垢染め出し液」を使ったみがき残しチェックでは、多くの児童がほぼみがき残しなしでみがけるようになった。



(3) 6年「トリプルHA～」カード

家庭での生活習慣定着カードとして、全校で取り組んでいるカードを少し変更して活用した。「はや寝、はや起き、はみがき」のトリプル「は」と、食後3分以内、3分間、1日3回のトリプル3を合わせたものである。点検カードで活動がマンネリ化しないように、意識をするポイントを少しずつ変えて取り組んだ。休みの日の歯みがきにまだ課題が見られる。今後はさらに保護者との関わりを意識した歯みがきの取組と、基本的生活習慣の定着を合わせてしていきたい。

(4) 5年家庭科「五感をはたらかせて食事にむかう習慣」授業を通して

子どもたち同士の学び合う力を育てることで、本校の研究テーマに迫ろうと、探求的な学習における整理・分析を子どもたちなりの情報をもとに取り組んだ。本時は、「食べて元気に」の題材のまとめとして、ご飯と味噌汁の実習から、意欲的にレシピ作りに取り組み、「食と歯・口」を関連づけた活動ができた。

五感をはたらかせて食事にむかう習慣の大切さを家庭科授業の中で実感した。出来合いの物を食することに慣れている児童が食材の持つ本来の味を感じたり、切り方を工夫して噛み応えを楽しんだりしながら、しっかり噛むことで唾液の分泌を促すことができた。事後の給食の時間、噛む回数を意識したり、「おいしい」という声が多数あがるようになった。

